

## 趣 旨

### キーワード記入

#### ■ 問題意識・目指すことなど

**私** たちはなんだかんだでどうしたこうした。でも、こうなっていますのでこうになりましたが、こうになりました。

これまで行われてきた環境学習のプログラムについて、「一貫性がない」「異なる施設で同じようなプログラムをしている」などの課題があった。

事例 1：ケナフの栽培

事例 2：午前中、琵琶湖博物館を見学し、午後から水環境科学館にいて、プランクトン観察をする。

\*環境学習は、系統的、総合的に学習することが望ましいといわれているが、学習施設ごとに情報が異なったり、学習テーマが水に偏るなどのデメリットがある。

そこで、施設が連携しテーマまたは、地域をつないだ環境学習プログラムを開発するために活動をはじめた。

テーマ例：ヨシ

地域例：湖南環境学習施設連携

（琵琶湖博物館～水環境科学館～ウォーターステーション琵琶）

## 経 過

### キーワード記入

#### ■ 取り組み経過

H17年8月 立ち上げ

H17年 月 班分け

#### ○課題研究のための聞き取り

- ・琵琶湖博物館（牧野厚史氏、杉野和彦氏）
- ・環境学習支援センター（井阪所長、小林さん）
- ・ウォーターステーション琵琶（上野さん）

#### ○環境学習のつどいの参加

- ・環境ホットカフェ開催  
「今、地域のためになにができるか」施設の役割を考える
- ・体験プログラムの提供
- ・環境学習関連施設の交流会

・  
・

写 真

## 成果

### キーワード記入

---

#### ■ できたこと・成果など

##### 事業としての

- 滋賀県エコライフ推進課と環境学習のつどいの「施設連携のカフェ」を協働で企画運営することができた。
- カフェの参加施設アンケートから、当グループが課題としていた施設連携によるプログラム開発が望まれていることが分かった。
- 環境学習の推進には、人的資源の支援が必要とされていることが分かった。特に、教育的な目的をもつ学校と社会教育施設が連携することが期待されている。具体的には、施設と学校をつなぐコーディネーター制度のしくみを考えていく。
- 環境学習プログラムの開発に時間がかけれないため、勉強会、情報交換会など交流型の研修の要望があることがわかった。

##### 協働としての

- 滋賀県博物館協議会の事務局からの聞き取りを行ったことで、施設連携に関する情報収集をすることができた。今後このネットワークを生かすことが1つの鍵になる。
- 個人の持っている人脈やネットワークがしくみづくりに機能することがわかった。そのため、今後は、施設をつなぐためのキーパーソンの選出と協力を進める。

## 課題

### キーワード記入

---

#### ■ 課題・問題点

##### 事業としての

- 18年度の実績を生かして、市民参加型で滋賀県の「環境学習のつどい」を企画運営するにはどうしていけばいいのか。
- これまで各施設で行ってきた環境学習について、各施設が情報を共有化し、単体ではできなかった事業を連携して実現していくことが課題としてある。

##### 協働としての

- 「環境学習のつどい」で明らかになった参加施設の要望を具体的方策にしていく過程で、必要な人材や場をつくる必要がある。そのため、協働部活の「行政担当」「施設ボランティア」の人脈を生かして協力者を求めていく。

## 今後の方向

キーワード記入

---

■ H19年度の取り組み方針等  
（課題対策も含めて）

事業としての

- 施設連携プログラムの開発
- 交流会、情報交換会の開催
- 来年度のつどいへの連携

協働としての

## その他

キーワード記入

---